

三条教区通信

第 46 号

発行日 2011年4月15日

発行者 三条教務所長 鷺尾 幸雄

発行所 真宗大谷派三条教務所
〒955-0071 三条市本町 2-1-57

変更⇒ E-mail: sanjo@higashihonganji.or.jp

URL: <http://www.gobosama.net>

★本通信は上記 URL からご覧いただけます。

今月の法語

〔法語カレンダーより〕

仏号

はなはだ^{たも}持ち易し

浄土

はなはだ行き易し

【教行信証行巻】

東北地方太平洋沖震災

2011年3月11日に発生いたしました東北地方太平洋沖震災により尊い生命を奪われた方々並びにご遺族に、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災され深い悲しみと大きな不安のなか、今なお苦しい生活を余儀なくされておられる全ての方々に、心からお見舞いを申し上げます。同時にいち早く被災現場に駆けつけ救援活動に携わってこられた多くの方々、そして各地において救援活動を続けてこられた全ての方々に深く表敬いたします。

宗派といたしましても震災直後から被災地の寺院・ご門徒をはじめとする現地の状況把握に努め、救援金の募集、救援物資をとまなっ

た救援チームの派遣など、直ちにできることから対応を講じております。各教区の有志の方々による様々な形での支援も続けられております。教区といたしましても、物資の搬送、救援金の勧募、本山救援隊の中継など被災者支援をいたしておりますが、今後、被災者救援の長期化が予想されておりますので、引き続きご支援をお願い申し上げます。

※なお、被災者救援につきましては本山ホームページ(<http://www.higashihonganji.or.jp/>)にも掲載されておりますので、ご覧ください。

研修会等ご案内

■若手寺族研修会

開催案内既送

- ◆期 日 2011年4月13日(水)～14日(木)
- ◆会 場 13日:第21組浄泉寺 14日:第13組善行寺
- ◆講 師 武田 定光 氏(東京教区因速寺住職)
- ◆内 容 『宗祖親鸞聖人5章・6章』をテキストとした講義及び座談。
- ◆問 合 せ 三条教務所(担当:森)まで。
- ◆主 催 三条教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌委員会同朋会運動推進部会

■春季声明講習会

開催案内同封

- ◆日 時 2011年6月8日(水)9:30～16:15
- ◆会 場 三条教区同朋会館
- ◆講 師 藤澤 善夫 氏(本山 堂衆)
- ◆内 容 葬儀式を中心とした講習
- ◆持ち物 『中陰勤行集』、間衣、輪袈裟、小念珠
- ◆受講料 500円
- ◆問 合 せ 三条教務所(担当:五辻)まで。
〔主催:「声明講習会」部門〕

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌

「被災者支援のつどい」開催



既にご承知のとおり、さる3月11日発生の「東北地方太平洋沖地震」により、御遠忌法要の第一期法要が中止され、急遽「被災者支援のつどい」が執り行われるはこびとなりました。

災害発生に伴い、『真宗』4月号にも掲載のとおり、諸行事も中止や変更となっておりますので、ご確認をお願いいたします。

※なお、被災者支援の集いなどの記録は本山ホームページ(<http://www.higashihonganji.or.jp/>)にも掲載されておりますので、ご覧ください。

本山御遠忌法要と団参について

既に全寺院にご案内があったことですが、第二期と第三期は御遠忌法要が勤まります。各団体に団参誘導員である職員から連絡があったと思いますが、行程全体については各旅行社さんと十分ご相談くださり、意義深い参拝となりますよう念じております。



田んぼアートのお米を進納しました。



阿弥陀堂素屋根内三条教区の展示場所の様子です。

2011年

第二期法要	4月19日～4月28日
第三期法要	5月19日～5月28日
御正当報恩講	11月21日～11月28日

2010年度住職研修会開催

佐渡組廣永寺 住職 大久保 州



3月9日、2010年度住職研修会が例年とは違い、教区同朋会館一会場にて開催された。講師は元朝日新聞宗教・学芸記者で現東京医療保険大学教授の菅原伸郎氏である。80名近くの住職・坊守・ご門徒が集った。東北地方太平洋沖地震やその後各地で起こる地震、福島第1・第2原発の問題など誰も想像し得ない中、「智慧・慈悲・方便—大谷派だからできること」との講題で、実践ということに中心を置いたお話だったと思う。まさにその後起こった地震や事故などで、強く親鸞聖人の教えて下さった浄土真宗という教えを学ぶものとして、「実践」とは何か、強く、深く考えさせられることになった。

順序は逆であるが、教区の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌委員会同朋会運動推進部門の幹事である佐々木亜人氏が閉会式の挨拶で昨年お聞きした菅

原氏のお話を振り返り、こう伝えて下さった。「大谷派は一体何をやってるんだ。こんな宗教状況の中で、カルトあり、死後浄土ありとか言うてですね、とんでもないことがまかり通っていて誰も信用しない。そういう中において、本当のことを言うのは大谷派しかないじゃないか、と。あなた方それを自覚してるんですか、と。」「大谷派は言うこと、考えることはいいけれども、実は動かんということもはっきりおっしゃった。そのことを私は聞いて、三条教区でも指摘を率直に受けていきたい。ということで今日の研修会になったのでございます。」これは実践、そのことを強く意識されたものだろう。またその強い語調が私たちが「実践」ということをどう受け止めているのか、念仏者としての「実践」とはなんなのか、ということを確認せよ、と呼びかけているようであった。

研修内容は、先生の出遇われたのは清沢満之、曾我量深、金子大榮、安田理深の流れであり、その浄土の思想は「魔」を克服してきたはずであると。これは事前に送っていただいた「南御堂」紙を再読されたい。しかし、質疑にもあったが、本当に真宗の教えというのは「魔」を克服する教えなのだろうか。カルトを魔として、悪いものとして排除していくようなものが真宗の、親鸞聖人の教えて下さる念仏の教えなのか、との声には個人的に同じことを思った。そして学生に「祈らない宗教があるよ。その代表は仏教だ」と教えておられるとか。果たして…。個人的になりすみません。

本山御遠忌各種行事の変更について

『真宗』誌4月号にも案内されておりますとおり、災害発生に伴い各種行事の中止や変更がございますので、お目通しくださいませようご案内申し上げます。

「親鸞」屏風の公開について

『同朋新聞』4月号に掲載されました井上雄彦氏作「親鸞」屏風の一般公開についてお知らせいたします。

公開期間 4月4日～17日、4月29日～5月18日
公開時間 9時～16時
公開場所 大寝殿(5月は期日により場所を変更いたします)

阿弥陀堂(あみだどう)前の受付で「整理券」を受け取ってください。なお、整理券はおひとり1枚とさせていただきます。会場となる大寝殿には番号順でお入りいただきますが、混雑してまいりましたら入場制限を行います。整理券をお持ちのまま、大寝殿の手前にあるギャラリーにてお待ちください。

※大寝殿を出ていただくと、退場口手前に「メイキングDVD」上映コーナーがございます。約6分の映像ですので、譲り合ってください。

※作者との申し合わせにより、写真・ムービーの撮

影は一切お断りいたします。また、作品に手を触れることも厳禁です。

境内販売所の販売品について

団参記念品カタログは引率責任者あて送付されましたが、阿弥陀堂前の常設販売所のカタログを希望の方は、教務所までご連絡ください。ただし、販売所では通信販売を行っておりません。また、教務所や本山において記念品販売の取次ぎや発送もできません。

教化委員会からのお知らせ

三条教区教化研修テーマについて

教化委員会企画委員会において、これまでの教区教化研修テーマ「共にといえる 人生を生きよう」について、教化委員会任期満了までの間、継続する運びとなりました。

教区教化委員会を中心に、このテーマについて考察を重ねて、次の教化委員会へ引き継ぐべく、【「共にといえる、人生を生きよう」に憶う】と題して、順番に執筆、毎月『教区通信』に掲載いたします。

第30回目は、研修部会委員の楠雅丸氏です。

「共にといえる、人生を生きよう」に憶う

第18組西源寺 住職 楠 雅丸

いよいよ御遠忌を迎えようという直前、大震災が襲った。私は参拝中止も含めて総代方と相談し、お参りすべしと27日から3泊で“御遠忌”団参した。

本山は第一期御遠忌法要をとりやめ、被災者支援の集いとしたが、直前の中止決定は苦渋の選択であったらう。

これだけの大災害を目の当たりにしてのことだから、法要中止を受けて団参を取りやめても、計画どおり実行してもどちらも正解だと思う。私は本山にお参りすることでは、同じなのだからと我々に言い聞かせて参加した。

自坊では今回の参加者の八割ほどが初めての本山参りであって、後にも先にも今回が正式？なお参りの方もおられることである。となれば、住職が本願寺に率先して門徒の方々を、引率すべきということか。

さて、教区ではどう考えたらいいのだろうか。「共にといえる、人生を生きよう」「おめさん そろっと参ろうて一私を新発見」これが教区テーマとスローガンである。なにをもって“共に”というのか？“そろって参ろうて”とは、何にどこにお参りするののか？

つねづね感じていることだが、三条別院報恩講にも

っと多くの参詣があって欲しいと思う。教区内唯一の
崇教別院に、私たちは足を運ぶべきである。

共にというのなら、参ろうてというのなら、この点一つ
を明確にさせてこれからの教化計画を建てねばと思
う。

誰にいわれたか忘れたが、“本願寺は報恩講教団
です”という言葉が記憶の中に残っている。もしそうな
らば、住職はご門徒を別院に引率すべしということ
である。

※次回は研修部会委員の井上温成氏(第10組
光寺)よりご執筆いただきます。

園長、設置者研修会に参加して

三条教区 松葉幼稚園 渋谷 麻理子
1月21日(金)、22日(土)、新潟県寺泊岬温泉
ホテル飛鳥にて、三条支部2010年度園長、設置
者研修会が行われました。講師に、大谷保育協会
常務理事、保育心理士会代表でいらっしゃる那須
信純先生をお迎えして、1日目は「保育心理士の1
0年の歩みと、これから」、そして2日目は、フォロ
アップ講座保育人間学Ⅰとしてお話を頂きました。

1日目はまず、時代の動きとして「変わる家庭の
姿」「地域社会の変容」などがあげられ、それに伴
い現場には「気になる子が増えてきた」「子育て支
援、家庭(親)支援」などの変化、動きが出てきたと
のこと。特に「気になる子が増えてきた」ということ
で、言葉の問題「自分はしゃべるが問いかけに答え
ない」など、そして運動・感覚の問題「歩き方がぎ
こちない」などが問題化されてきている。そこで私
達保育者に問われる課題として「保育が困難にな
る保育者の出現」「地域災害への備え」「発達障
害者支援法の制定」「新しい保育の流れ」をあげら
れました。

又、保育心理士として「保育を保育人間学として
学ぶ」「現場と研究の場を近くする」「モチベー
ションを高くする」など求められてきているはず。し
かしここで注意していかなければならないのは、カ
ウンセラーの養成機関ではないこと、そして学ぶの
は個人だが関わりはチームで歩んで行くなど、教
え・導くのではなく、あくまでも保育をすることを
大切にしてくださいとお話されていました。

今後の課題としてあげられるのは、「真宗保育の
社会制・公開制」「学会設立への調査」「関係学
校、特に大谷大学との連携における学術的資質へ
の向上」「人的配置とエリアマネージャーシステ
ムの効率化」が大事だということ。又、気になる
子だけに目がいていて他の子には目がいてい
るのか、心理士会の人数ばかり増やしてどうす
るのか、という批判もあがっているのは現実で、
どう考えていくかも今後の課題となるようだ。

2日目は、「誕生・いのち・人生を考える」というこ
とをテーマに沢山の書物・実態を例にしてお話を頂
きました。芥川龍之介「河童」からは、生まれる前
から凄く立派な河童の赤ちゃん、龍之介は自分も
生まれていかどうか考えたかったのではないら
うか、そして私自身の誕生の選びはありましたか。
又、「いのちのまつり」からは、沢山の祖先から頂
いた自分のいのち、気がつけばおとこで、栃木
生まれで、お寺に生まれて・・・という自分の
環境ができていた。そんな中、言っ
てはいけない2つの言葉として「誰のお陰で
大きくなった」「誰が生んでくれと頼んだ」を
あげられました。生まれることは生きること、リ
セットが効かない、代替不可能、長さは違
うが始終あり、何時終わるか誰にも不
解である。いのちを頂いていることを
忘れて自分だけが必死になっているよ
うな自分があるのでは、努力・精進しな
ければいけないことに出会わせて頂
くことを頭に入れ、保育を心がけて
行かなければということでした。

2日間を通して、保育心理士を取
った私達に求められる立場、そして、
いのちの大切さを改めて考えさせら
れた貴重な有意義な時間を過ごすこ
とができました。

「差別と真宗」基礎講座を受講して

第10組浄敬寺 住職 永寶 和彦



「足を踏んだ人はすぐにそれを忘れるが、踏まれた
人はその痛みを忘れない」とよく言われます。日本
の太平洋戦争での行為がいまだに中国や韓国など
の国々から事あるごとに非難される由縁です。現
代における部落問題は、まさに人の足を踏んでい
ながらそれに気付いていない自分自身の心の在
り様が問われている問題なのだと思います。思
い起こしてみると、私が大学に入学した頃、構
内で盛んに狭山事件についてオルグ活動をして
いる学生がおり、恥ずかしながらその時初めて
部落問題ということを知りました。それだけ私
がそれまで育った環境の中では部落差別という
ことが現実性を帯びていなかったとも言えるか
も知れません。その後、卒業して柏崎に戻って
から、十組青年部の活動の中で同和問題を勉強

機会を得、同和問題は他の場所の話ではないこと、そして宗祖親鸞聖人の教えをいただく真宗門徒として重要な課題であることを学びました。しかし、一方で今までの心のどこかに部落問題は時代と共に忘れ去られていくものであり、殊更掘り起こさないほうが良いのではないかという考えが拭い去れていないのも事実でした。今回、「信心の課題として」という副題でのお話しは、一つ部落問題に留まらず、私の信心の姿が問われている重要な問題だということを再認識させられました。私たちは、人を差別する事が良いことだとは決して思ってはいません。しかし、気づかないうちに言動の中に差別的な面が現れてくるとしたら、残念ながら自分の中に如何ともしがたい差別性を内包していると言わざるを得ません。他人の差別性を批判することは易いでしょうが、自分自身がどうなのかということを厳しく問い続けていかなければならないと感じました。今後自らが同和問題にどのように関わっていくかについて明確な方向性は示せませんが、先ずは自分の言動から意識して差別性を排除するように努めていくことが大切だと思っています。自らの言動を律することは、自らの信心と向き合う事なしにはあり得ないと思うからです。いわれの無い差別に苦しむ人がおられる社会は、決して宗祖が願われた御同朋御同行の社会ではありません。真宗門徒としてそのことだけは決して忘れてはならないことだと思います。もう一点、今回の講座を受講して、部落差別の学習のあり方は非常に難しいものだとも感じました。差別の根絶を願って、ということで敢えて部落の特定に繋がる話もありましたが、多くの人達が共に学ぶ場として、どのようなやり方が良いのかについても検討の必要があるように思いました。貴重な学習の場をいただいたことに感謝いたします。

合掌

教学研修会報告

第18組西入寺 藤波法英



去る3月1日、2日と教学研究会が行われました。講師は昨年に引き続き三木彰円先生(大谷大学准教

授)にお願いし、『教行信証』の「信巻」を中心にご講義頂きました。

まず、現存する坂東本に親鸞聖人自らお付けになられたとされる線や印のところに着目し、親鸞聖人が引文された浄土論註の破闇満願(聖典 213)から以降、一念転積(聖典 241)までの間に称名憶念という曇鸞から引き継がれた親鸞聖人の大きな課題が示されているところを確認しました。そして、称名憶念ということが私たちに成り立つということはどういうことであるのかという問いを立てて講義が進められました。

行信ということについて、あくまでも親鸞聖人にとって行と信とは弥陀の誓いであって本来は分かつものではないものを何故あえて独立させるような形で『教行信証』を著わされたのかを尋ねていく中で、まず親鸞聖人ご自身が真実の行をきちっとおさえるために「行巻」をまとめられたと予想されるということともに、三国七高僧の仏教の歴史が整然と語られる形で真実の行に出会っていかれる親鸞聖人のお姿が読み取れるということを確認しました。そして、真実の行である称名(念仏)に出会うということはどういうことであるかを尋ねていく中で、それは「もののほどをさだむることなり。」(聖典 545)と親鸞聖人は確信され、わが身のあり方が明らかになっていくはたらきによって見出された自己、その自己とは何ぞやという問いを改めて「信巻」に著わされているのではないかと問いを頂きました。

初日には「行巻」と「信巻」の関係性や流れを確かめながら主に真実の行について聞かせて頂き、2日目には真実の行に見出された自己の姿から信心の課題についてご講義いただきました。その中で、機の深信によって明らかにされた自己を「決定深信乗彼願力」(聖典 440)と捉えられたことから、「疑いなく慮りなくかの願力に乗じて、定んで往生を得」(聖典 215)と、名号によって呼びさまされた凡夫であるわが身の事実がそのまま如来に救われるという尊い意味が見出されていくことを聞かせていただきました。それはつまり、人間の立場から自己を見出していくのではなく、仏に見出された姿として自己を観ていくことにこそ「往生を得」という根拠となることを聞かせていただきました。今回の講義を通じ、身の事実を人間の立場で見ているところには絶望せざるを得ない人間観に留まるのではないかという問いを頂くとともに、如来の願心によってのみ見出される「往生を得」べきわが身を知らされて一步を踏み出すという大きな課題を頂いたと思うところであります。

声明基本講習会報告

去る4月4日(月)、教区同朋会館を会場に、声明基本講習会が開催された。

今回も、得度班と研鑽班に分かれての班別講習。得度班が18名、研鑽班が27名、合計45名の参加が

集まった。



得度班では、得度考査に向けた講習を年齢別に班分けをして行い、8月に得度受式予定の子どもたちも参加した。

研鑽班では、6月8日に開催予定の春季声明講習会に先駆け、『中陰勤行集』を使った葬儀式についての講習を行った。

今回の声明基本講習会の開催趣旨であるように、受講者の方々は「真宗大谷派僧侶としての意義並びに心得を、声明を通して学ぶ」ことができた講習会になったのではないだろうか。(五辻)

児童夏の集いスタッフ募集

三条教区では毎年、「三条教区児童夏の集い」を開催しています。

今年は、7月27日(水)～29日(金)、鷹の巣キャンプ場にて、2泊3日のキャンプを行います。普段と違う生活で輝く子ども達の眼が、スタッフにも「新しい発見」を連れてきてくれます。また、夏の集いには毎回、若手スタッフも多く参加し、スタッフ同士の交流の場ともなっています。

ご寺族・ご門徒関係なく、ぜひ、みなさまのご参加をお待ちしています。問い合わせは三条教務所担当(五辻)までお願いします。

教務所からのお知らせ

◎御遠忌期間中の事務について

既にお知らせいたしておりますとおり、御遠忌期間中教務所の事務は変則的となっております。教区の皆さまには何かとご迷惑をおかけいたしますが、宜しくごお願い申し上げます。

また、この『教区通信』はじめ教区内の定期発送物、

HPの更新など、5月・6月共に中旬、7月は初旬となる可能性が大きいので、予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

◎同朋の会結成届けについて

寺院・教会や地域などで同朋の会が結成されましたら、結成届を教務所にご提出ください。届出の提出されました同朋の会には、「同朋の会提灯」や「同朋の会奉仕上山旗」が無償で贈呈されます。

(贈与は1回。提灯や上山旗には申請されました会の名称が入ります)また、「同朋会員結婚記念念珠」が無償で贈られます。詳しくは教務所(森・北島まで)

◎ラジオ放送「東本願寺の時間」について

宗門が1951年11月よりラジオ伝道として取り組んできている「東本願寺の時間」について、吉運堂様のご提供により、新潟県でもお聞きになれます。

また、現在は、宗祖の御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」を番組テーマとして様々な方より法話をいたしておりますが、現在、宗派のホームページである「しんらんしょうにんホームページ」

(<http://higashihonganji.jp/index.html>)にて、これまで放送された番組をお聴きいただくことができます。

是非、ご聴取ください。

ラジオ放送「東本願寺の時間」

○テーマ 「今、いのちがあなたを生きている」

○講師 (事情により変わる事があります)

☆4/3～5/14 片山寛隆 氏(三重教区)

☆5/15～6/25 海 法隆 氏(東京教区)

○放送局 新潟放送(BSN)

*新潟県全県をカバー

・小出エリア 1026KHz

・中越エリア 1062KHz

・下越エリア 1116KHz

・塩沢エリア 1485KHz

・上越エリア 1530KHz

○時間 毎週金曜日 5:00～5:10

○提供 吉運堂 様

◎ 教区他 主な行事予定一覧 (4月8日現在)

日程は変更となる場合があります。諸行事の重複等を避けるうで参考になるよう、なるべく把握している行事は掲載しております。

日 時	行事内容
2011年	
4月	
4/15	女性研修会スタッフ会
4/16	真宗学院
4/18 14:00	教区御遠忌委教化伝道部会
4/19	～4/28 本山御遠忌第二期法要
4/20	15組有縁会
4/21	教区教化センター
4/23	真宗学院
4/26	同宗連総会
4/28 14:00	教区教化センター 児連会議
4/29	～5/18 本山御遠忌御遠忌讃仰
4/30	真宗学院
5月以降の予定	
5/7	真宗学院
5/14	真宗学院
5/19	～5/28 本山御遠忌第三期法要 15組有縁会
5/20	～21日 三条仏教会花祭り
5/21	真宗学院
5/28	真宗学院
6/3 14:00	21組公開講座
6/4	真宗学院 保育大会・新任者研修会 20組公開講座
6/8 09:30	春季声明講習会
6/11	真宗学院 19組推進員養成講座
6/12 13:00 17:00	別院フォーラム2011 仏青報恩講
6/13	15・16組育成員研修
6/17 14:00	同朋の会教導会 15組有縁会
6/18	真宗学院
6/25	真宗学院
6/30	教区教化委員・教区坊守会役員・教区御遠忌委員(所長選定)任期満了
7/2	真宗学院
7/9	真宗学院 19組推進員養成講座 16組聞法の集い
7/14	真宗学院同窓会総会
7/15	15組有縁会
7/16	真宗学院
7/18	15組推進員総会
7/23	真宗学院 前期試験
7/27	～29日 第49回児童夏の集い
8/20	真宗学院
8/21	真宗学院特別講義
8/24	16組教化委員会

8/27	真宗学院
9/3	真宗学院
9/13	～19日 真宗学院前期教師修練
9/9	16組声明講習会
9/10	19組推進員養成講座
9/13	～19日真宗学院前期教師修練
9/24	真宗学院
9/29 13:00	16組坊守会学習会
9/30	査察委員任期満了
10/1	真宗学院
10/8	真宗学院 19組推進員養成講座
10/15	真宗学院
10/22	真宗学院
10/29	真宗学院
11/5	～8日三条別院報恩講 真宗学院生参拝
11/12	真宗学院
11/19	真宗学院 19組推進員養成講座
11/21	～28日 日本山御正當報恩講
11/26	真宗学院
12/2	～4日 19組養成講座後期上山
12/3	真宗学院
12/9 13:00	16組坊守会学習会
12/10	真宗学院
12/17	真宗学院学年末試験
12/31 11:45	大晦日 三条別院除夜の鐘
2012年 同朋会運動50周年	
1/1 00:00	三条別院修正会
2/25	～26日 真宗学院一泊研修会
3/31	教区門徒会員・教区監事(常任委員会選出)任期満了
4/30	参議会議員任期満了

駐在教導のつがやき

～森之篇～

東日本大震災が発生しておよそ一ヶ月、私自身、大災害を目の前にしてどのような行動や思いを持ちたりしたのか、思いや行動にまとまりが見つかることなど無いが、そのなかで少し振り返ってみた。

▼断片的ではあるが、映像(主にテレビ画面)が伝えることを見ながら、起きた災害、今起きている現実を、すべて受け止めなければならない。(受け止められることなどできるわけがないのに)なにかそのような、義務?のような(うまく表現できないが)切迫感のようなものをつよく覚えながら映像を見続けていた。

▼また、圧倒的な現実の前に(映像ではあるが)言葉にならない、うめき声しか出せないそのような状態

の繰り返しだった。

▼父として、夫として、子として、そして人としてどうするか、答えは無いが問われ続けている。

▼言葉の持つちからとは、どこから、どんな関係性から生まれてくるのか。

▼言葉にしようとするほど、今の目の前の現実からどんどん遠ざかるような気がする。

▼見ること(見せることでは)では現すことができない、そして言葉では語り尽くせない、そうではあっても、必ず伝えたいことを持っている(抱えている)

▼時は、途絶えることなく永遠に繋がり流れている。脳裏に焼き付けようと、そこに山や谷の節目を作りひとの営み(悩み・苦しみ・喜びなど)が重なっていく。

頭の中での整理がつかないなか、思いつくまま断片を、まさに愚にもつかないつぶやきを書かせていただきました。お許しいただきます。

所員のささやき ~加田岡之篇~

▼「3・11」今まで味わったことの無い揺れを体験した。大きなフェリーに乗っていて大波を乗り越えた時のような感じだった。日本列島全体が大きく揺れたみたいだ。その後もあちこちで、余震は発生し続けている。テレビで繰り返し放送された津波の映像はまさに映画のような光景だった。▼翌日、本山から救援物資の運搬ということで、三条教務所も中継地点となり、その準備に奔走した。救援物資の調達はいろんな団体が既に始めているのか、昨晚たっぷりあったスーパーのミネラルウォーターの山は、翌日には残りわずかになっていた。レンタカーも確保するのに困った。▼原発の報道が続く中、三条市内でも地震発生4日後ぐらいから市内の道路が渋滞していた。買占めだった。スーパーからはカップ麺が完全に消えていた。このときは、自分も含めてみんなパニックをおこしているなど肌で感じた。▼御遠忌第1期法要は中止となった。その中で、待ちに待った団体参拝誘導員業務で本山へ向かった。計画停電の実施も無く、定時の新幹線に乗れた。雪山を越えて太平洋側は晴れていた。群馬を抜け始めたあたりで車窓から北を眺めるとどんよりとガスがかかっていた。向こうにはあの原発があるんだ。何か現場を背にして京都へ向かっている自分が後ろ髪をひかれるような思いになった。(坊主頭ですけど…)。まもなく地震に強いといわれるスカイツリーが目に入ってきた。▼京都駅に着いた。人影からは災害の気配は全く感じられなかった。災害は、隣り合わせにならないとどこか遠くの出来事になってしまう。自分も今までそうだった。駅前の大型電気店内は煌煌と輝いていた。そんな中で、明日からの「被災者支援のつどい」を迎える。「こんな時に、京都までやって来て…」「参拝される皆さんを笑顔でお迎えしているいいものか」何か複雑な気持ちであった。▼御影堂内は冷蔵室だった。彼岸を過ぎてもまだ寒かった。キャンセルの空席もチラホラあった。途

中から御影堂内両サイドには障子が入れられた。キャビンアテンダントじゃないが、ひざ掛けやホッカイロをお配りしたり。最後は出発する皆さんに手を振ってお見送り。支援のつどいでの法話は、「親鸞聖人が遭遇された災害の歴史」「念仏者としての支援とは」といった内容について聴聞することができた。あらためて自分が中止となった御遠忌法要にどう向き合ってきたのかを問われる日々だった。▼三条別院には、数家族が避難して来られている。小さな子どもたちの走り回る声を聞くとなぜかほっとさせられる。いったい自分をどこに置いて復興・支援とういことに向き合っていけばいいのだろうか。決して被災者を受け入れてあげている、助けてあげているという立場では考えたくない。念仏を支えとして生きる我々がこの災害からどう学びどう歩んでいくのか?「支援に行ってもすることが無い。でもそばにいてくれるだけで勇気付けられる。」そんな報道をよく耳にする。▼救援金を募っている。教務所でも救援金が寄せられている。お預かりした救援金は、第二期法要で本山へ直接持って行く予定だ。送金手数料がもったいない。今回はかなりの長期戦だと思っている。ちょっとの節約でも長く貯めれば大きな力になる。「私にできることは何か?」自分だけじゃない。みんなそう考えているだろう。みんなの「そこちから」を信じたい。

新潟親鸞学会からのお知らせ

【入会申し込み・お問い合わせ】

新潟親鸞学会事務局 / 超願寺内 (〒951-8061 新潟市中央区西堀通二番町 ☎025-222-2820)

新潟親鸞学会デスク :

<http://niigata-shinran.cocolog-nifty.com/blog/>

